



## 「今年(さる)年 伸びる年」

校長 内山 茂



今年の元日は例年になく暖かく穏やかな天気、初詣帰りに寄った近くの公園には、チラホラではあるが桜の花が咲いていた。嬉しい反面、異常気象が気掛かりである。

さて、今年の干支(えと)は申(さる)である。「申」は、本来は「シン」と読むが、干支を分かりやすくするために動物を用い、「申」には「猿」を当てたために「さる」と読むことになったという。※下記参照

元々、干支は3000年以上昔の中国で作られたもので、日本には1500年位前に伝わったとされる。年月や時間、方位を示すために使用される一方、農作物を育てる際の季節や天候の目安として利用されてきた。

ところで、申という字には、「伸びる」という意味がある。農業においては、「草木が伸び、実が成熟して香りと味がそなわり、固く殻におおわれていく時期」とされている。人に例えれば、「心や体が成長し、人格が完成されていく時期」と言えるだろう。

皆さんは、今、まさに人生の中で最大の成長期にある。「申年」の今年、心身の鍛錬に励み、大いなる成長の年になることを期待する。

- ※①子(シ→ねずみ)②丑(チュウ→うし)③寅(イン→とら)④卯(ポウ→うさぎ)  
⑤辰(シン→たつ)⑥巳(シ→み・へび)⑦午(ゴ→うま)⑧未(ビ→ひつじ)  
⑨申(シン→さる)⑩酉(ユウ→とり)⑪戌(ジュウ→いぬ)⑫亥(ガイ→いのしし)

## 自励集会から — 生徒会から重点目標発表

1月8日(金)、「自励集会」が行われました。平成28年のスタートにあたり、校長先生から今年の干支である申年についてお話がありました。

その後、第49期生徒会長の青野 莉帆さんから新生徒会の取り組みとして、今後の重点目標3点が全校生徒に向けて発表されました。

- ①あいさつの徹底
- ②部活動の推進(入部率をあげる)
- ③環境美化に努める



青野 莉帆さん(機2年)

## 新年に向けて — 各学年部長から

### ★1学年部長 尾形 知恵美 先生

平成28年が始まりました。入学時に立てた高校生活の目標達成への道は、進んでいるでしょうか。順調に進んでいる道、立ち足かかる壁に歩みを止めている道、行き先を迷い思案している道、それぞれでしょう。

年新たに、心新たに、今一度、出発です。

### ★2学年部長 中濱 儀博 先生

2年生の皆さん、新年の目標や抱負は決まりましたか。その目標や抱負を具体的な行動につなげて、継続しましょう。自分を見つめて、自分を鍛えて、自分を出しきれるように、「今」を精一杯頑張りましょう。

### ★3学年部長 川淵 光弘 先生

社会は卒業生の「努力する姿勢」に期待をしています。同窓会や各関係者に御協力をいただき、社会人としての心構えについて卒業準備講座(8講座)を2月8日から実施します。社会に出てから役立つ実践的な講座ですので、将来に役立ててください。

## 3年生へ・・・佐実での3年間を感謝の思いでしめくくれ

心が行動を決し、行動が習慣をつくり、習慣が品格をつくり、品格が運命を決する。そして、運命はその人の人生を決する。すなわち、心が人生を決していくということである。

よき人生にしていくための心のあり様として必要不可欠なのが、「感謝」であろう。「感謝」のない人は、自分だけがきついかか苦しいのだと思う。そこには「自分だけ」への思いしかない。そういう人には、力になって助けてくれる人は現れない。「感謝」のある人は、周りに心が向く。人の役に立ちたいと思う。きつくて苦しいかもしれないけれど、心はそこにフォーカスしない。そういう人には、力になって助けてくれる人が必ず現れる。君たちの先輩である、キックボクサー 水町 浩さんの生き様を見てきて確信したことである。(生徒指導部 中村 浩 先生)

## 「教員と教師」 — 宇田川 決 先生寄稿

ソクラテスは知識を切り売りする人をソフィストと呼び、「無知の知」を自覚する自分と区別した。

その例に従えば、教員は利害損得を計算して生きることを教える人であり、教師は損得でなく真実を重んじ、それに従い正しく生きる努力をしている人のことである。ソクラテスはそれを「ただ生きるのではなく、よく生きること」と表現した。つまり、人間としての生き方を重んじているのである。その生き方には「四元徳」(知恵・勇気・節制・正義)の実践があったことは言うまでもない。

ことばより、行動で示すこと。それが教師というものである。